



# すぎの木通信

2021年10月7日(木) No. 140

発行：特定非営利活動法人しさわ  
就労継続支援B型 ワークプラザすぎの木  
宍粟すぎの木家族会

☎ 0790-65-0170 FAX 65-0177

〒671-2506 宍粟市山崎町宇野319番地

## 「精神科病院×新型コロナ」

愛知県 長谷川宏 家族

(月刊 みんなねっと 10月号掲載)

令和3年7月31日のNHKのETV特集「精神科病院×新型コロナ」は、コロナ禍における精神科病院の深刻な現状を1年間の取材を通じてリアルに放映されました。

日本の精神病院入院患者数は27万人であり、日本の精神科病床数は世界の20%を占めているとして、世界に比較して日本の入院者数が突出して多いことも指摘しています。

日本精神科病院協会の会長は「精神科病院の役割は、『治療』と『社会秩序の担保』であり、『精神科病院がなくなると、困るのは保健所と警察である』『一般医療は治療するだけだが精神科医療は保安までやっている』」と発言しています。

この発言は、一般市民の精神障害者に対する情報（知識）不足による偏見・差別発言でなく、医療関係者の発言であり、まったく受け入れることのできない偏見・差別発言であり、強く抗議すべき内容です。

また、厚労省の障害福祉計画による精神障害者の地域移行をめざした「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の考えと根底的に異なるものです。

放映には、「コロナは、我々が見て見ぬふりをしようと思っていた問題を明らかにした」、「精神科病院が倒産して患者が放り出されたら世の中に受け入れる素地がない」などの内容もあります。

今回の NHK 特集は、精神障害の理解促進に向けた普及・啓発の一つとなり、通常の E テレ番組の倍の視聴者があったことは精神科医療への関心の高さを示しています。

放映を契機として、日本の精神科医療を政策転換すべき時期として私たちは声を上げるべきと思います。この放映に関して皆さんはどう思いますか？

**宍粟すぎの木家族会会長（NPO法人しさを 副理事長） 上垣 迪雄**

「残念ながら私は、この放送を見ていません。しかし、この文だけで十分です。数年前「精神科医に拳銃を」の記事が、インターネットで流れたのをみました。その時もショックでしたが、今回は、それ以上のショックでした。皆様の率直なご意見をお聞かせください。

読まれた感想は、葉書・手紙（表紙記載の住所）・FAX・メール（[suginoki@meg.winknet.ne.jp](mailto:suginoki@meg.winknet.ne.jp)）でお願いします。締め切りは10月末日とします。但し、通信費は各自ご負担下さい。

### **ワークプラザすぎの木施設長変更**

令和3年4月ワークプラザすぎの木の施設長が、赤松茂範に代わりました。コロナ禍という色々な行動制限のある中、約半年無事に運営する事ができました。これから、行動制限も緩和されて行くなかで、利用者や地域社会にとってのより良い運営を心掛けたいと思います。当事業所の更なる発展に、ご理解ご協力をお願いします。

**編集後記**：コロナ禍と言われましてから、はや2年近くが過ぎました。今年はワクチンの接種が各年代別に進み、ようやく新規感染者の数も減少傾向に転じています。各種イベントやレクリエーション活動など、長い間自粛せざるをえませんでした。そろそろ当たり前の生活とまではいきませんが、コロナ禍前の活動に戻していけそうな、そんな感じがします。皆様におかれましてはどうでしょうか？一日も早い当たり前の生活が戻って来ることを願います。（赤松）